

座談会

「授業サロン」を実施して

<出席者>

司会：寺澤朝子教授（大学教育研究センター副センター長 経営学科）

出席：岡本 聡准教授（日本語日本文化学科）

栗濱忠司教授（電子情報工学科）

堀井直子准教授（保健看護学科）

山北晴雄教授（経営情報学科）

坪井和男教授（学監 大学教育研究センター長 電気システム工学科）



授業サロンのメンバーになって



【司会(寺澤)】今日は中部大学の『魅力ある授業づくり』への取り組みとして、昨年度秋学期に試行した授業サロンについて、意見を交換したいと考えています。

授業サロンは、異なる専門分野の先生方がお互いに授業を見学し、授業運営に関するノウハウの交換や、それぞれの授業に関する改善点を見出すという目的で、10人の先生に参加いただき、5人ずつ2グループに分かれて実施しました。ここにいらっしゃる皆さんは、それぞれのグループで授業サロンを経験された先生です。まず皆さんに、この授業サロンのメンバーになってくださいと言われた時、そして実際に授業を見ていただいた時の率直な感想をお伺いしたいと思います。



【岡本】他の分野の授業を見て、果たして分かるのだろうかという疑問が、まず率直な感想でした。しかし実際に見せていただいて、それぞれ専門分野は違うが、授業のスタイルなど学ぶべきところが多い、こうい

うスタイルもあるのかと感心し、非常に多くのことが吸収できました。

【栗濱】私は笑顔で授業をと思っていたのですが、他の先生方の授業を見せていただいて、ああ、それだけではないな、こういう授業もあるんだと、非常に新鮮でした。

【堀井】看護は実習などもあるので、いつでもどうぞというのは無理ですが、こちらの都合に合わせていただけたので、そこはまずクリアし、普通の雰囲気であれば自分の特長を出せると思い、前向きに取り組みました。

実は、学生にどうやって自分のこととして看護をとらえてもらおうかとすごく苦労していたので、他の先生方に自分が精一杯やっているところを見ていただいて、ご意見をいただければ、これは自分のためになるのではないかと思います。良い意味での緊張感や、モチベーションが上がるような感じがありました。ただ、学生がきちんとした態度で授業を受けてくれるかなという意味での不安は少しありました。

【山北】私はこの授業サロンの話を聞いた時、非常に緊張しました。それから、自分の授業を見てもらうことに対する怖さがありました。例えば自分の授業

運営や、教授方法が時代遅れになっているのではないか、あるいは他の先生方が自分の全然知らない教え方をしていたらどうしようといった不安があり、ドキドキした気持ちで当日を迎えました。しかし最初の10分を過ぎてからは普段通りにできました。

自分の授業を振り返って

【司会】今回の授業サロンはそれぞれの授業をすべてDVDに録画して、皆さんに見ていただきました。自分の授業を見たときのお気持ち、他人から指摘されたことで、目からウロコが落ちたような気づきの体験などをお聞かせください。

【栗濱】自分では、もっとテキパキやっているとと思っていたのですが、DVDを見ると、非常にゆっくりだなというところがありました。

【堀井】90分の授業をDVDで見て自分を振り返ったことは初めてでした。思った通り、機関銃のようとは言いませんが早口でした。DVDを自分で見る場合は、おそらく欠点ばかり見るんですよ。ここをこうすれば良かったと。

【山北】私もDVDで自分の授業を見たのは初めてで、1回目を見たときは、もうただ気恥ずかしいだけで、細かいところを見られずに終わってしまったのですが、2回目は、“素”の自分とある程度距離を置いて、客観的に教員としての自分を見ることができました。一度客観的に見てしまうと、気になる個所が非常に多くなってきてしまいました。自分の授業を客観的に見るという経験をしたことは、すごく大きかったと思います。自分が提供する商品としての授業の品質を上げていかなければいけないと思うんですね。自分自身を見たことがないのは、何のチェックもしない商品を店頭で並べているのと同じです。

【岡本】去年、自分の姿を初めて見たときに、「ああ、話し方が速いな、途切れがないな」と気が付きました。他の先生方からの指摘でも学生の授業評価でも、やはり早口だということでした。DVDと、皆さんからの意見、それから学生の評価と、3つが共通ですと、ああ、やっぱりそこなんだと強く認識するんですね。

意見交換会に参加して

【司会】この授業サロンでお互いに授業運営の中での気づきを交換し合うのは、そのまま自分たちの授業の個別カウンセリングを受けているのと一緒で、自分自身が成長するきっかけになっていると思います。

では次に意見交換会の感想、授業サロンの今後の課題についてはいかがですか。



【堀井】授業を見学して生じた疑問や自分の参考のためにさらに詳しく聞いてみたいことが、意見交換会の場でダイレクトに聞けるんですね。非常に参考になりました。

【山北】意見交換会で、他学部の先生方も、問題点や課題を共有できたことは、非常に良かったと思います。今まで自分が考えたことのなかった考え方も聞けたので、すごく参考になりました。

ただ、それがすぐ解決に結び付くかということ、そこは難しいところなのですが、やはり回数を重ねている試行錯誤しながら解決していかなければいけない問題だと思います。

【司会】苦勞しているのは自分だけではないんだという感覚ですね。今の学生にどのように向き合えば良いのか、みんなそれぞれ悩んでいて、その悩みを分かち合い共有できる仲間がいるというだけで、教育に関するモチベーションが下がらずに済みますね。

【岡本】具体的な手法として、板書とパワーポイントのどちらが良いか悩んでいたのですが、それぞれの先生方の板書やパワーポイント、プリントの使用のコツを意見交換会で詳しく教えてもらったのは、とても参考になりましたし、分野を越えていろいろなことをお話しできました。人文系だけでは見えていないような視点を社会科学系や理系の先生とお話することで、知識の融合が起こる可能性があることをサロンの付加価値として感じました。

【栗濱】意見交換会は、やっぱり顔を合わせるということにインパクトがありますね。紙でコメントシートをいただいて、それを読んで、ああなるほどと

と思いますが、もう一回きちんと言葉にして言ってもらえるというのは、その方の気持ちも含めて伝わってくるので非常に良かったなと思います。教員同士で意外な側面なんか垣間見れて楽しかったですね。

【司会】この授業サロンは、中部大学の『魅力ある授業づくり』の取り組みの1つとして、特色あるものになっていくのでしょうか。今後、この授業サロンをどのようにしていくと良いのか、ご意見を伺いたいのですが。



【山北】学生への教育効果を考えた場合、もちろん魅力ある授業をやっていることは当然なのですが、それをきちんと何らかの形で測定して、評価し、その目標を定めるにしても何らかの基準があったほうが良いと思うのです。そういったものを今後、どのような形で設定して、改善活動に生かしていくかだと思います。

【岡本】やっぱりお互いを高めるために、こういう小さな授業サロンを継続的に実施し、どんどん人を入れ替えて展開していった方が、より自分の気づきや自分の授業の改善につながる可能性があるのではないかと思います。

【栗濱】急速な展開は難しいかもしれませんが、しかし良い試みなので、じわじわと進めていけばいいと思います。結局、継承したいのは、授業に取り組む姿勢とか、あるいは心だと思うのです。技術はそれを伝えるための道具にすぎません。

【堀井】私は、山北先生の「品質チェックもないものを商品として売ることか」という意見にすごく納得できます。ですから、私たちのように体験した者が、まず学科でアピールをすれば、1人でも2人でも手を挙げてくださる方がいると思うのです。興味のある方はいらっしゃるので。ただ知らないだけではないかと思いますが、まだ教員歴の浅い人に「頑張ってみたら？」とサロンへの参加を勧めるのもいいかもしれません。

授業サロンの勧め

【司会】学生からの授業評価とは違う授業サロンのメリットを知っていただければいいと思うのですが。

【堀井】授業評価は学生主体なので、内容が面白いといいとか、ちょっと評価が偏ってしまうことがあります。それも学生の興味を引くためには大事かもしれないませんが、教員が目にするのは、授業運営の仕方であったり、時間の配分などです。それは、良いとか悪いとかではなく、こういう授業サロンでないとしてこない指摘ではないかと思えます。単なる評価とは違いますね。

【山北】学生はいろいろな意識を持っているので、その授業評価もまちまちです。授業サロンは、授業をどうやって良くしていくかという意識が、全員の先生方にありますから、評価基準も非常に分かりやすいと思います。



【栗濱】繰り返しになりますが、結局、授業評価は学生の主観で、それはそれで本当に大事なことなのですが、授業サロンは教員が客観的にきちんと全体を見るので、それらの評価や指摘を有効に活用して授業をつくっていくことが大事だと思います。

【司会】最後に大学教育研究センター長の坪井和男先生から、この授業サロンの取り組みについてのご講評をいただければと思います。



【坪井】中部大学の『魅力ある授業づくり』が活動を開始して2年、FD活動ワーキンググループの分科会の先生方のみでなく、熱心な有志10人の先生方が、自主的に授業サロンとして「お互いに高め合う」を合言葉に自主的に活動できたことは大いなる成果ではないかと思えます。

この試みが授業改善だけではなく、学部を越えた、いわば教員の教育力の融合とでも言えますか、そういうFDネットワークの構築にも大いに貢献していると思います。

あまり無理のないように、継続でき得るような形を追求して、本学の授業改善、ひいてはFDネットワークが社会からも大いに評価されることを望み、また『魅力ある授業づくり』への取り組みの積み重ねが、“魅力ある中部大学”につながることを大いに期待しています。

(文中敬称略)